放送委員会活動「弥栄光ニュース」を通して児童の主体性を育てる

～ 学校と地域の心を豊かにするテレビ放送 ～

南大野小学校　西岡　裕太

Ⅰ　はじめに

１　弥栄小学校学区の様子

弥栄小学校は相模原市中央区に位置し、弥栄・相生・相生みどり・栄・高根地区が含まれる。近隣には弥栄中学校や弥栄高校、銀河アリーナ、博物館、JAXA がある。

２　弥栄小学校の児童の現状

児童は元気で明るく活発である。特に児童会をはじめとした委員会活動が積極的である。

児童会の挨拶運動では、毎年、弥栄中学校の生徒会と一緒に取り組んでいる。

環境福祉委員会による ISO 活動では、節電節水の呼びかけや、エコキャップ・プルタブ集めに取り組み、環境に優しい学校を目指している。

放送委員会では、朝・中休み・給食・掃除・下校時に校内放送を流している。校内放送では、チャイムの代わりに音楽とアナウンスを放送し、チャイムがなくても行動できるよう意識づけを行っている。児童朝会や音楽朝会では、児童が体育館用のマイクやスタンドを準備し、片づけもしている。

さらに「弥栄光ニュース」という番組を定期的に制作し、給食の時間にテレビ放送で流している。全校児童は「弥栄光ニュース」をとても楽しみにしている。

私は、放送委員会の担当として、４年間、児童が進んで考え行動できるように関わってきた。そこでの活動は次のような目標を持ち、行ってきた。

放送委員会がテレビ番組制作を主体的に取り組むことで、学校や地域を心豊かに育てていくことを願っている。主体的とは、学校をよくするために進んで考え行動することと考える。主体的に取り組むことで、創造力や表現力を養う場にもなると期待している。

Ⅱ　活動の内容

１　活動目標と内容

放送委員会としては、視聴する全校児童が自分の学校を好きになり、自分が住んでいる地域に関心を持ち、関わりのある身近な地域の人々へ感謝を持つことができることを目標に取り組んだ。

そのために学校や地域のよさを紹介するテレビ番組を制作して、全校児童に紹介していくことにした。

２　具体的な取り組み

平成 24 年度の最初の委員会活動の時間に「どんなニュース番組を紹介していきたいのか？」と質問して、放送委員会の児童が話し合い、「弥栄小学校の**いいところ**を紹介したい。**キラリと光っている**ところを紹介したい。」などの意見が出てきた。学校のよさ、キラリと光るところを紹介したいという思いを込めて、「弥栄光ニュース」という番組名が決まった。

「弥栄光ニュース」が始まってから４年間で、新しい先生の紹介や運動会応援団・係活動の紹介などの番組を制作してきた。そのな

かでも、活発に活動し、かつ教育的価値が高かったものを紹介していく。

「弥栄光ニュース」に取り組んだ４年間は主に次のように進めてきた。

（１）「弥栄光ニュース」活動の変容

弥栄光ニュース１年目は、放送委員会が、２学期に替え歌作りのおもしろさを実感し、３学期に全校児童を巻き込んだ「弥栄ひかり体操」を完成させた。

２年目は、児童会を中心に学校全体で取り組んだ挨拶運動やＩＳＯ活動、給食について詳しく紹介し、かつアイデアあふれる紹介をするようになった。「相生みどり見守りたい」へのインタビューをし、地域との関わりを視点に番組を作ることもできた。

３年目は、ふれあいまつりのために学校へ来て仕事をしているＰＴＡの姿を見て、放送委員会の児童が紹介する気持ちが芽生えたからこそ生まれた番組となった。目立たないところで弥栄小のために熱心に働いている人たちにスポットが当たったことは、番組作りにおいて新たな視野が加わった瞬間だった。３学期では、２学期に紹介した影のヒーローへ感謝の気持ちを伝える番組を作り、年間を通してつながりのある活動にもなった。

４年目は、「登校でお世話になっている地域の見守りたいの人たちへ元気な挨拶を届けるために、弥栄小に元気な挨拶を取り戻そう」という身近な問題を解決するための活動になった。約２週間、毎日、挨拶運動や撮影に取り組み、過去最高の全７回放送となった。撮影した日または次の日にテレビ放送を流すことで「少しずつ増えてきた気がします。明日もやりましょう！」と、次への意欲が高まった。毎日、熱心に続けることで元気な挨拶をする児童が増えていることを実感していた。

次項より各年度ごとに活動の様子を詳しく述べる。

（２）１年目「弥栄ひかり体操」

（平成２４年度２学期）

２学期に「学校のよさを替え歌で紹介したい」という児童の意見から撮影が始まった。挨拶や廊下歩行、校庭遊びについての替え歌を考え、衣装や撮影場所を工夫して、撮影に取り組んだ。撮影した動画をテレビ放送で全校に流すと、みんなを喜ばせることができた。放送委員会の児童たちも、とても満足していた。

３学期に入ると、「全校から歌詞を募集して弥栄ひかり体操の替え歌を作りたい」と児童が提案し、全員が賛成して活動が始まった。歌詞を書くための用紙を作り、給食の放送で全校に呼びかけた。数日後、募集用紙を集め、各学年で一つ選び、弥栄ひかり大賞と称して表彰する準備をした。大賞に選んだのは、次の７つの歌詞である。

「弥栄小は、水道の水を無駄にしない」
「手洗いうがい、しっかりして予防」
「弥栄図書館は、楽しい本がたくさん」
「弥栄小の校庭は広い」
「弥栄小は環境にいい学校」
「中庭には自然がいっぱい」
「近所の人に挨拶するといい気分」

【写真】
替え歌を撮影した様子

【歌詞】
「近所の人に挨拶するといい気分」

大賞に選ばれた歌詞をグループに分かれて撮影を行った。本などの小道具を使い、ジェスチャーを織り交ぜながら歌を表現していた。「弥栄小の校庭は・・・広い」の歌詞では、２階のベランダから歌を歌い、校庭にいる放

送委員を撮る工夫が見られた。

【写真】
最後の歌詞を撮影する様子

また歌詞を作った児童を呼び、放送委員が表彰状を読み、大賞に選ばれた児童に渡す様子も撮影した。選ばれた児童は、とてもうれしそうな表情をしていた。

【写真】
弥栄ひかり大賞を渡して撮影する様子

１年目は弥栄小のよさを児童が工夫しながら歌で表現し、学校全体に発信することができた活動となった。

（３）２年目「学校ＰＲ大作戦」（平成２５年度２学期）

昨年に引き続き、弥栄小のいいところを紹介する「弥栄光ニュース」の目的をしっかりと持たせて活動に取り組ませていった。１学期には、新しく来た先生紹介などの番組を児童が楽しく制作することができた。

２学期に入り、「弥栄小学校の光り輝くいいところを紹介する番組を作りたい」と児童が提案し、学校ＰＲ大作戦と題した番組制作が始まった。決まった番組内容は、「弥栄アルプス・挨拶・ＩＳＯ・給食」だった。

放送委員がそれぞれのグループに分かれ、細かい内容や計画を話し合い、撮影場所やインタビューをする人を決めていった。撮影企画書を上手に作って、撮影に取り組むグループがあった。企画書を作ることで、グループ内で撮影内容を共有して撮影をすることができた。

児童が作成した撮影企画書

弥栄アルプス班は、休み時間に遊んでいる児童たちの様子を撮影し、遊んでいた一年生の児童にその場でお願いをし、「弥栄アルプスは楽しいですか？」と、自ら判断して取り組んでいた。

【写真】
１年生にインタビューをする様子

挨拶班は、児童会が全校から「あいさつたい」を募集して朝に挨拶運動をしている様子を撮影した。弥栄中学校の生徒会と一緒に挨拶運動に取り組む様子も撮影できた。

【写真】
中学校と挨拶運動をしている様子

その後、挨拶運動をする理由を児童会長にインタビューをし、「あいさつたい」として参加した児童に質問をし、インタビューをされた児童はイキイキとした笑顔で質問に答えていた。

【写真】
「あいさつたい」に参加した児童へインタビューする様子

ある児童が「地域の人にも聞いてみたい」という思いから、登下校でお世話になっている「相生みどり見守りたい」の方へインタビューを行った。児童が登校中にお願いをしてインタビューが実現した。「子どもたちから挨拶が返ってくると、とてもうれしいです。子どもたちから元気をもらっています。」と、挨拶への思いを全校に紹介することができた。

【写真】
「相生みどり見守りたい」の人へインタビューする様子

ISO 班では、環境福祉委員会が中心に取り組んでいるエコキャップやプルタブなどを集めている目的や場所を紹介し、「弥栄小は、環境に優しい学校を目指しています。」と目標を伝えることができた。

【写真】
ＩＳＯ班が撮影している様子

給食班は、「トリプルこんにゃく」というキャラクターとして登場した３人組がアナウンサーとして登場した。キャラクター名は、自分たちで考案し、自作の衣装を身にまとって取り組んだ。トリプルこんにゃくが給食の時間に教室へ入って突撃取材を実行し、給食がおいしい理由などを質問した。栄養士の先生には、おいしい給食の秘密を聞くためにインタビューをし、「弥栄小のみんなへ心を込めて作り、給食を“おもてなし”しています。」と上手に聞き出すことができた。さらに弥栄小の給食ランキングを調べて紹介をした。好きな給食を１位から３位までを大きな声でジェスチャーをつけて紹介し、視聴する児童を大いに盛り上げることができた。

【写真】給食班「トリプルこんにゃく」が撮影をする様子

２年目は、楽しい場所や児童会・委員会の活動の取り組み、給食、そして地域の人々の思いを全校児童に紹介することができた。

児童が弥栄小のひかり輝くいいところを紹介したい気持ちがあったからこそ、自ら進んで行動することができた。弥栄アルプスでは、撮影中に思いついてインタビューをし、給食中に突撃インタビューをするなど新たな考えで積極的に取り組むことができた。学校の外で地域の方へインタビューをしたことも新たな取り組みとなった。地域を巻き込んだテレビ番組を放送することで全校児童に地域のよさを感じさせることができた。

この番組で相模原市放送コンテスト最優秀賞に選ばれた。放送委員会の児童全員がとても喜び、授賞式の様子が全校に伝えられ、来年度の委員会活動への意欲がさらに高まった。

（４）３年目「影のヒーローを紹介しよう」（平成２６年度２学期）

１学期は、児童が委員会活動中ではなく、休み時間に自主的に集まって番組作りの話し合いを行うようになった。運動会が始まる前には、運動会に向けての目標を各学年や各係の代表者に依頼してインタビューに取り組んだ。運動会が終った後には、応援団長や各学級の代表者に感想を聞く撮影を行った。児童自身が進んで企画をし、活動が昨年以上に活発になった。

２学期に入り、学校行事のふれあいまつりの準備をしている様子を見ていた児童が「私たちのために見えないところで働いてくれているＰＴＡの人たちを紹介したい」と委員会の時間に提案した。その提案からテレビ番組の話し合いが始まり、見えないところで支え

てくれている人たちに視点を当てた「影のヒーローを紹介しよう」と題した番組制作に取り組んだ。インタビューをする影のヒーローは、事務員さんと技能員さん、ＰＴＡ会長と決まり、それぞれのグループに分かれ、企画・アナウンサー・カメラと役割分担をし、休み時間に打ち合わせをしながら撮影まで準備をした。

【写真】
役割分担し、撮影する様子

撮影日や場所、インタビュー内容を話し合って決めると、インタビューする相手にお願いをしに行った。事務員さんと技能員さんは、直接お願いをした。ＰＴＡ会長には、手紙のやりとりで撮影許可を得た。

【写真】
技能員さんにインタビューをする様子

事務室の中や作業室の前と、撮影場所をしっかり考えていた。ＰＴＡ会長の場合は、ふれあいまつりの時間にバザーやゲームなどが行われている体育館で撮影をした。ＰＴＡ会長に、ふれあいまつりを行う理由やミイラに変装している理由など児童が素直に聞きたいことをインタビューすることができた。アナウンサーの児童が、まわりにたくさん人がいるなかで、緊張感を持って熱心にインタビューをする姿が印象的だった。

【写真】
ＰＴＡ会長にインタビューをする様子

エンディングの撮影では、１２月に放送するということで自前のクリスマスの衣装を着て楽しそうに話す児童の様子が見られた。

【写真】
衣装を着て、エンディングの撮影をする様子

３学期は、影のヒーローを含め全校児童がお世話になった人たちに感謝の気持ちを伝える番組を制作した。各学級に気持ちを伝えた人たちへの賞状を作ってもらい、ALT や栄養士・調理員、音楽専科などに各学級の代表者が感謝の言葉を伝えて賞状を渡す様子を撮影した。

委員会での話し合いで「登下校でお世話になっているジョイントサーティー（登下校で見守ってくれるＰＴＡ）に感謝の気持ちを伝えたい」と５年生の児童の提案により、ジョイントサーティー会長へ感謝の気持ちを伝える様子を撮影することができた。

３年目は、昨年以上に児童が番組の企画を提案することが増え、平均で毎月１回のテレビ番組を放送することができた。

番組構成の話し合いで「もっとこうしたらみんなに伝わりやすいんじゃないか？」「でももっとこうしたら・・・」など活発な意見交換が行われるようになった。

ＰＴＡやジョイントサーティー会長など学校を支えてくれている地域の人への思いを撮影に込めることで、視聴する全校児童が「ありがとう」という気持ちを高められるようなメッセージ性がある番組を作ることができた。

（５）４年目「進んで元気な挨拶を取り戻そう」「地域のヒーローにありがとうを伝えたくて」（平成２７年度３学期）

２学期に「身近な問題を解決したい」という児童の思いから「問題解決ニュース」と題した番組制作に取り組むようになった。通学路を通ろう、学区外に児童だけでは行かない、道路で遊ばないという内容だった。各グループに分かれ、具体的に内容を考えていった。

パソコンで企画書を作る児童もいた。それぞれの場面を昼休みの時間に校門や学区外の近くまで行き、実際に問題の様子を再現し、弥栄レンジャーというヒーローが登場して問題を解決する撮影を行い、１２月に全校にテレビ放送をした。休み時間に学校以外の場所へ行き撮影したのは、初の試みだった。

【写真】
学校以外の場所で撮影する様子

３学期に入ると、１月には運動委員会とコラボした「大縄大会ニュース」、２月には児童会と「挨拶運動ニュース」の番組を制作した。

【写真】
運動委員会とのコラボニュース撮影の様子

３月に入り、放送委員会で「登下校でお世話になっている地域の見守りたいの人たちにありがとうを伝えたい」という思いから、見守りたいの方々が来る日の朝に旗振りをしている様子を校門の前で撮影した。しかし撮影後に放送委員の児童が「弥栄小のみんなが元気な挨拶をしていない！！緊急事態だ！！挨拶の伝統を取り戻して、地域の見守りたいの人たちに元気な挨拶を届けたい！」という強い思いを他の放送委員の児童に伝えた。すると、みんなもそう思っていた。見守りたいの人たちが登校時に来るのは２週間後、それまで弥栄小の元気な挨拶を取り戻して地域のヒーロー（見守りたい）に感謝の気持ちを込めた挨拶を届ける番組作りが始まった。

【写真】休み時間等に番組内容を話し合う様子

番組内容は、２つだった。

１つ目は、毎朝、登校時に挨拶の様子を撮影し、反省点を放送委員の児童が伝えることだった。放送委員は、校門前に立ち、進んで挨拶運動に取り組んだ。とても上手な挨拶をする児童を見つけ、挨拶の秘訣をインタビューして紹介することがあった。選ばれた児童は、とてもうれしそうにしていた。

【写真】
挨拶が上手な児童にインタビューをする様子

２つ目は、学校内でも先生や地域の方々に出会ったら進んで挨拶をすることだった。悪い見本といい見本を撮影してクイズにし、動画機能を生かして分かりやすく伝えていた。この回の番組を放送した後の昼休みに、先生に進んで挨拶をする児童を見ることができた。

【写真】
学校内で進んで挨拶をする見本を撮影する様子

毎日の取り組みから全７回の長編の番組制作となった。それぞれの番組名は次のようになった。

① 緊急事態
② 進んで元気な挨拶を取り戻そう（リア）
③ 学校内で元気な挨拶をしよう
④ 元気な挨拶を紹介しよう（リア）
⑤ 地域のヒーローにありがとうを伝えたくて
⑥ 地域のヒーローにありがとうを伝えたくてパート２
⑦ 最終回：弥栄小の挨拶

※リア：撮影した日にテレビ放送

この番組は、すぐにテレビ放送をすることで効果があると考え、撮影後の次の日にテレビ放送を行った。そのなかで２回ほど撮影をした日に放送したリアルタイムテレビ放送に取り組んだ。リアルタイムに流す方が視聴す

る児童がとても真剣に見ていた。リアルタイムで流れないときに「先生、今日の挨拶は流れないの？見たいよ～」と挨拶の様子を楽しみにしている児童がたくさんいた。

放送委員の児童は、弥栄小の挨拶の変容をリアルタイムで全校児童に伝えることができ、続けることで弥栄小の元気な挨拶が増えてくる達成感から、さらに番組作りへの意欲が高まった。最終回では、３月１５日に地域の見守りたいの人たちに弥栄小全校児童から元気な挨拶を届け、３人の見守りたいにインタビューをし、支部長の方からは「感激しました。子どもたちの元気な挨拶が私たちのやる気につながっています。これからも進んで元気な挨拶を続けてほしいです。」というううれしい言葉をもらい、放送委員会の児童は、とても充実感を味わっていた。

【写真】地域の見守りたいにインタビューをする様子

全ての回で登校時の挨拶の様子を入れ、校門前だけではなく、国民生活センター前や弥栄中学校前の交差点での挨拶の様子も撮影をした。複数の場所で撮影したことにより、視聴した全校児童にとっては、自分たちの挨拶をしっかりと振り返り、次の日の挨拶に生かす様子を見ることができた。

毎朝、登校を見守っている校長先生や教頭先生が「元気な挨拶をする児童が増えた。これからも挨拶のニュースを続けてほしいくらいだよ。」と、放送委員会のテレビ番組が全校児童への影響力がとても大きいことを称賛し、テレビ制作の強みを実感することができた。

Ⅲ　活動の成果と課題

１　成果

１つ目は、児童の思いや願いを尊重することを常に大切にし、学校や地域のことをよく見ること、ただ見るだけではなく、課題意識を持つことを伝えてきたことにより、番組作りへの意欲が高まり、活発に取り組むことができたことである。

２つ目は、教師が活動のねらいをしっかり持ち、「弥栄小のキラリと光るよさを紹介しよう」という大きな目標を軸に、番組作りの企画を話し合う際に「どうして？」「だれのために？」など番組の意味づけをしっかりととらえさせたことにより、よい番組につながったと実感できたことである。そのためには、児童同士の話し合いを聞くなかで、教師自身が完成した番組をイメージしながら、価値のある助言をする必要がある。

３つ目は、教師が見通しを持って取り組み、児童にも見通しを持たせることで、児童に失敗してもやり直せるという安心感を与えられたことである。番組内容が決まった後、時間的余裕を持った撮影スケジュールを組み、撮影本番の失敗やインタビューのやり直しに対応してきた。教師が余裕を持った撮影スケジュールを組むことも大切である。

４つ目は、他の委員会と連携したり、弥栄中学校との挨拶運動と協力したり、学校行事とタイアップし学校全体のことを考えて活動したりすることで、活動の幅が広がりいろんな人たちとの関わりを持つ意識を高めることができたことである。

児童の思いと教師のねらいが合致したときに、児童が主体的に取り組み、創造性あふれる番組が完成し、学校や地域を心豊かにすることができたと実感している。

２　課題

年間の見通しを持って実行してきたと考えるが、３年目の２学期に５年生が学級閉鎖と

なって替え歌を作ることができなかった。冬に近づくと広まる可能性のあるインフルエンザ。感染が広がる時期に取り組もうとした計画性の甘さがあった。常に学校の年間計画や地域の行事、季節ごとの特色などを考える必要があった。

Ⅳ　今後に向けて

４年間、放送委員会の活動を通して、テレビ放送を使い、作り手となる児童に「みんなを楽しませたい。地域の人を紹介したい。学校の問題を解決したい。」など、高い目的意識を持って取り組むことができるようにし、受け取る側には「放送委員会が作ったニュースを見たい。私たちの学校には、いいところがたくさんある。ぼくたちのために働いている学校や地域の人たちに感謝の気持ちを伝えていきたいなぁ。あいさつが減ってきているから、明日からもっと元気よく挨拶をしよう。」など、安らぎや発見、自己の振り返りができるようにしていきたいと感じた。

また視聴者から番組内容を募集すると活動の幅が広がると考えている。

例えば、「番組提案箱」を放送室の前に設置する方法がある。

はじめに、「学校や地域で紹介してほしいことや問題を解決してほしいことを書いてください。」と番組作りの大きなテーマに合うような言葉をつけた提案用紙を準備する。提案用紙を番組提案箱に入れ、提案用紙をもとに放送委員会が番組を作っていく。

番組内容を募集することで、視聴者である全校児童の思いに応える番組ができるのではないか。

さらに学校と関わりがある地域の人たちをもっと知ることで、テレビ番組の活動が促進されると考えている。番組作りの話し合いのなかで、ふとしたきっかけで地域の人とつながりを持たせることができるからである。

児童の実態は様々である。放送委員会の活動形態も校内放送やラジオ番組作りなどいろいろな方法がある。どんな形であれ児童が進んで考え行動できるような委員会活動であればよいのではないかと考えている。

しかしテレビ番組は、声や表情、動きがすべて伝わり、見ている児童に分かりやすく伝えることができる。伝える場所にこだわったり、変装したりと表現する幅が広がることも利点となる。学校を少し離れたところでも登校でお世話になった地域の人たちを映像にして紹介することもできる。

テレビ放送は、全校児童を心豊かにし、放送委員会の児童の意欲を掻き立てる最高のスパイスなのかもしれない。

平成２８年４月に学校を異動したが、そこでも幸いなことに放送委員会の担当になった。前任校とは違う学校環境の中で、「南っ子ニュース」というテレビ放送に取り組んでいる。

１学期は、５月に「運動会特集」、６月に「新しく南大野小学校に来た先生紹介」をテレビ放送で流した。「応援団長にインタビューをしたい。」「新しく来た先生の特技を紹介したい。歌を歌ってもらいたい。ダンスつきで。」と放送委員会の児童がしっかり目的意識を持って取り組むことができた。テレビを視聴する全校児童は、とても喜ぶ様子が見られ、放送後にすぐに新しい先生に声をかける児童を見ることができた。放送委員会の児童は、１学期の活動で達成感を得て、２学期への活動意欲が高まっている。

【写真】先生紹介の撮影に取り組む様子

これからは、放送委員会活動「南っ子ニュース」を通して、児童の主体性を伸ばしていきたい。また視聴する児童が喜ぶような、学校や地域の心を豊かにできるような「南っ子ニュース」を作っていきたい。